

洗足学園中学校 第3回 国語 解説

1

出典は速水敏彦『他人を見下す若者たち』です。筆者は最近の若者は、やる気がなく、謝らず、他人を軽視し、すぐキレる人が多いと考えています。筆者の専門分野である教育心理学の研究データによって、新しい日本人像を紹介しつつ、その変化の最も根源的な要因を追求した本です。

出題した箇所では、現代の若者が他者を軽視し、見下すような行動をとる背景を考察しています。

問一 線(1)「自信」がどのように形成されるかを説明する問題です。8行目を御覧下さい。「自信というのはつまるところ、親しい人間関係にある周りの人たちから、承認され賞賛される経験を通して形成されることが多い」とあり、自信について説明しているのここを用いて説明します。

問二 線(2)現代の若者が身近な友人の言動に対して意識過剰である理由を答える問題です。26行目から28行目に、中学や高校で身近な友人の目を過剰に気にする若者の具体例が登場し、その後の28行目に「自分だけ他者たちと異なる行動をして、異質な存在と見なされることを極端に恐れるため」と理由を説明していますので、この部分の最初の五字を抜き出します。

問三 線(3)筆者が現代の若者に期待することを、説明する問題です。5・6段落の内容をふまえて説明します。5段落の35行目では、筆者は友人たちがすばらしいものを持っていたとしても気づかずに終わってしまうことを残念に思っています。また6段落の39行目では、「相手を詳しく知って自分の参考にしようという志向も弱い」とあり、今の若者たちが友人を自分の参考にしようとしないと指摘しています。以上の2点をまとめます。

問四 線(4)「カンケー」がカタカナ表記されている意味を答える問題です。42行目に「現代の若者は特に見知らぬ人たちには一般に冷淡で無関心である。」とありますから、イが正解です。ア、エは42行目の内容をまったくふまえていないので間違いです。ウの「生気に満ちてはいる」は、カタカナ表記することによるものではありませんので、あてはまりません。

問五 線(5)「美しい伝統的心性」について答える問題です。直前に「このような」という指示語があるので、指示内容を答えます。49行目から52行目を御覧下さい。地域の不幸な人を経済的、心理的に支援したこと、誰かのミスを会社全体の責任としてみんなで助け合っ

たことの2点が書かれています。

問六 漢字は、しっかりと勉強しておいてください。

問七 この文章に対する正しい説明を選ぶ問題です。

他者軽視行動については、1行目に、「他者軽視に基づく仮想的有能感が生じる背景には、「希薄化する人間関係」が存在する。」とありますので、エが合致します。

ア 筆者は若者の他者軽視行動についてやむをえないことであるとは言っていません。

イは、本文14行目から16行目において自己評価によって自信が高まるのは成熟した大人になってからの話であることが書かれているので、選択肢の「大人も子どもも」があてはまりません。

ウの仮想的有能感の是正の必要についても、筆者は判断を下していませんのであてはまりません。

2

物語文の出典はねじめ正一『赤チンの町』（1993、新潮社）です。昭和30年代の街を舞台に、主人公である貞雄とその友人たちとの心情と友情、そして家族の絆を描いた作品です。出題した箇所は、父がパン屋を営む貞雄が、母親に立派なパン職人になるよう求められ、反発する場面です。

問一 線(1) 母親が健次をどのように思うようになったかを説明する問題です。「金の卵」は「将来いいパン職人になることができる存在」を表し、ニッケルは金より価値が低いものですから、「パン職人に向いていないのではないか」と思えてきたということがわかります。この二点を盛り込んで説明することが必要です。

問二 線(2) 健次のことを非難する母親を取りなして、父親が「『そう言うなって』」といた理由を選ぶ問題です。

7行目を御覧下さい。「十六、十七は寝ざかりってな。寝ても寝ても眠いもんだ」「俺にも覚えがある、と父親は懐かしそうに言った。」とあることから、父親が健次に自分の若い頃を重ね合わせていることが分かります。したがって、エが正解です。

アの「母親に対する反感」は、父親にはないので当てはまりません。

イは、兄弟子に頭を蹴飛ばされた思い出を笑いながら回想していることから、選択肢の「強い恨み」の部分が不適切です。

ウは、「あきらめ」の部分があてはまりません。

問三 線(3)母親が、健次が店員でもいいと思うようになった原因を説明する問題です。母親の言葉から知ることができる健次の様子は28行目から30行目に「お父さんの仕事を見習うより、店番のほうが好きみたいなんだもの。調理場じゃいつもつまんなそうな顔しているし、覚えるのが遅いのもそのせいじゃないかしら」とありますので、この箇所を使って説明します。

問四 ことわざや慣用句はしっかりと勉強してきてください。

問五 線(5)貞雄の「口惜しさと遣る瀬なさと怒り」はどのような境遇によるものか説明する問題です。貞雄自身の境遇は79行目から81行目に「パン屋はいやだと思っているがなりたいものはなく、それでいて何かにならなくてはいけないのだ。でないと、パン屋になるほかはないのだ・・・。」とあります。この部分を用いて、なりたいものがある明成、何になってもよく、またならなくてもよい一帆との対比をはっきりさせながら、説明します。

問六 脱文補充問題です。口調から母親が貞雄に向けた言葉であることがわかります。「じゃあ何になりたいの」とありますから、貞雄がパン屋になることを否定する言葉の後でなければなりません。40行目に「いいよ俺、パン屋は」とありますので《イ》を選びます。

問七

貞雄に関する正しい説明を選ぶ問題です。

アでは、「母に将来の夢をつぶされてしまった」とありますが、本文中で母親が貞雄の夢を知っていることを読み取れる描写はありませんからあてはまりません。

イでは、本文63行目に「いい父親だと思ったが、貞雄はやっぱ父親と同じにはなりたくなかった。」とありますから、選択肢中の「父には尊敬の念を持っている」の部分もあてはまりません。

ウでは、貞雄が詩のノートに書こうとしたのは、母親に傷つけられた気持ちではないので不適切です。

エでは、本文47行目の「あと何十年かたって、そのときの自分が父親とそっくり同じというのは耐えられなかった。」とあり、選択肢と合致するのでこれが答えになります。